

# 農業体験を通じた異世代交流と食文化伝承

鹿児島県霧島市 姫城しゅじゅどん会





鹿児島県霧島市姫城地区は、鹿児島空港から車で15分、桜島を取り囲む錦江湾の最奥部にある。地区には800年以上の歴史をもつ県下最古の温泉地として知られる日当山温泉郷があり、西郷隆盛が湯治したとされる「西郷どん湯」や日本一の家族湯天国として多くの湯治客で賑わう。また、地区を流れる天降川は、水源が天孫降臨神話の地とされる霧島山にあることに由来し、近隣には多くの古社があるなど、歴史のロマンに魅かれて遠方から訪れる観光客も多い。

この姫城地区で、農業体験を通じた異世代交流と食文化伝承の活動を19年に渡り続けているのが「姫城しゅじゅどん会」(会長・肥後義弘さん)。年間通じてほぼ月に1回、農業体験活動を行っており、8月下旬に行われた「かかしづくり」を訪れた。

朝9時、会場の姫城地区公民館に子どもたちがやってくる。かかしづくりに参加するのは、地元日当山小学校の児童と日当山中学校の生徒たち。また、子ども育成会の親や学校の先生も参加し共に作る。しゅじゅどん会のメンバーや地域女性連などの高齢者が傍らでサポートする。

開会は9時半。はじめに文部省唱歌「案山子」を全員で歌う。「山田の中の一本足の案山子 天気よいのに蓑笠着けて朝から晩までただ立ちどおし 歩けないのか 山田の案山子」

会長の肥後さんからは「コロナ禍で開催を悩みましたが安全に気を付けてやりましょう。今日は思い出に残るかかしづくりができたら嬉しいです」と挨拶。続けて副会長の今林さんからは「案山子」の由来について説明。古くは魚の頭や獣肉などの悪臭を放つものを田畑に立て獣害を防ぐことを「嗅

がし」と呼んでいた。この「かがし」が転じて「かかし」となったという。また、中国では「子」の漢字は大切に敬う気持ちを表しているとのこと。何気なく立っているかかしがこれまでと違って見えてきそうだ。

数人ずつのグループに分かれてかかし作りに取り掛かる。まずは十字の竹に綿を巻き付ける。それぞれが自宅で不要になった洋服、手袋、ワンピース、スカートなど持ち寄り、工夫して何でも材料にする。はさみでワンピースを切って着付けを試してみると「なんか普通の人間みたい」と小学生の女の子。黒い服を切り刻むと髪の毛に早変わり。スマホを覗きながら型取りをする小学生のグループもいたり、傍らでアドバイスするしゅじゅどん会のメンバーも、どんなかかしができるのか楽しみな様子。女性連のメンバーはかかしづくりに15年参加する人もいて「かかしづくりが今では地区の伝統行事になっている」と話す。最後に顔を書き上げると完成だ。

親子で初めて参加した母親は「学校を通して配布されたチラシを見て参加した。作り方を教えてもらったので良かった」という。日当山中学校の生徒は「地域のことを大事に思っている大人がたくさんいることを伝えたい」と話す。今日のかかしづくりの様子取材して、地元新聞社に記事として送る予定だそう。

姫城しゅじゅどん会は、平成15年、当時の隼人町から打診を受けて「青少年育成モデル事業」としてスタートしたもの。地域の団体や学校関係者など26名から構成される実行委員会を組織し、校区の子どもたちに「生きる力」を身に付けさせるために「体験活動」を取り入れようと年間活動計画を立て、年間を通じて様々な農業体験活動を行っている。



しゅじゅどん会の構成員として、地域女性連は食に関する指導、老人クラブは農業体験指導、子ども育成会は参加の呼びかけ、シルバー人材センターは農地管理・農作業の補助、地区有志は企画や連絡調整など、地域全体で役割分担をしながら、小中学校と緊密に連携し活動を支えている。

年間行事では、米、そば、じゃがいも、さつまいもの植え付けから収穫までほぼ毎月行う。コロナ禍前は行事の後に必ず女性連が地元食材で作った郷土料理を皆で味わっていた。

これまで19年間続けてきた活動は、現在では姫城地区の住民、老若男女をつなぐ大きな存在だ。子どもたちが地域の中で育つということが、住民の間で広く理解され浸透しつつある。現在、しゅじゅどん会の構成メンバーが高齢化していることから、次の世代にもこの事業を担当してほしいと願っている。「親たちも体験活動に参加することで成長している様子が伺える。事業に参加する親につないでいければ」と肥後さんは期待を込める。

かかしづくりを終えて最後にもう一度、みんなで「案山子」を歌って散会となる。

「山田の中の一本足の案山子 弓矢で威して力んで居れど 山では烏がかかかと笑う耳が無いのか 山田の案山子」

今日作られたかかしは、姫城公民館近くの体験田に稲刈りの時期まで立てられる。役目が終わった後は一つ一つほぐして片付ける。かかしに使った竹や藁などは収穫祭の炊き出しの燃料になる。

「手作業の体験活動から物を大切にすることを育んでほしい」としゅじゅどん会では願う。

**【連絡先】**

姫城しゅじゅどん会 (代表：肥後義弘さん)  
Tel 080-5209-1523